

M. H. 英語英文学科 3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私が台湾留学を目指したのは、2 年生の秋頃です。YouTube でよく海外の生活動画を見ていた時、台湾で中国語を使って暮らす日本人や留学生に興味を持ちました。それまで中国語に触れた事はありませんでした。しかし、漢字は日本人に親しみがあり、英語の次に世界で話されている言語なので、自分も勉強したいと思いました。新型コロナウイルス感染症が流行している時期だったので、本当に留学できるのか不安でしたが、大学で募集要項を見つけて目指すことにしました。

② 留学を目指してから出願までの韓国語学習方法

私は 1 年生の時の第二外国語が中国語ではなかったため、数ヶ月後の 12 月に HSK3 級に合格することを目指して勉強をしていました。その級の単語を覚えて、公式問題集を使用することを重点に置いて勉強していました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

5 月に HSK4 級の合格を目標にして中国語の勉強を続けていました。3 年生の春学期は中級中国語を履修していました。7 月末にビザ申請に必要な健康診断や新型コロナワクチン接種のために病院に行きました。大阪にある台湾領事館の必要資料には留学先大学からの入学許可証の原本が必要と明記されていましたが、メールで送られてきた PDF の印刷で通りました（コロナ禍での特別措置かもしれません）。私はビザが発給されるまで何週間も待つことになってしまい、出発日がなかなか決まりませんでした。

④ 現地到着後

台湾桃園国際空港（トウエン）に到着後は、すぐに防疫タクシー（2023 年 3 月 24 日をもって終了）で防疫ホテルに移動しました。8 泊 9 日をホテルで過ごした後に、留学先である中国文化大学に移動しました。最初に国際課では、ARC CARD（居留証）について教えてもらい、日本語学科で、自分では分からなかった履修登録の方法などを教えてもらいました。当日に、学校周辺で自分の布団類を買わないといけないことが一番大変でした。国際課の方に相談すると、サポートしていただけると思うので、多くの人がいる平日に学校に到着することをおすすめします。

⑤ 正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

自習は寮にある自習室か学内の図書館を利用していました。グループでの発表練習は、図書館の声を上げるスペースや教室ですることが多かったです。24 時間利用可能な自習スペースもありました。

◆履修科目

中国語の授業は初級、中級、上級に分かれていて、読み書きや会話などがありました。全て取ることもできるし、一度参加してみて、レベルを知ってから履修を決めることができます。

・ **ORAL COMMUNICATION SKILLS (2)**

通年の英語学科の授業でした。同志社女子大学で必要な単位に読み替えできる授業内容だと思い、選択しました。毎回の授業は4人から8人ほどの少人数クラスだったので、発言回数が多くて大変な時もありました。春学期も秋学期も同じ教科書を使って、リスニングや文法を学びました。中間と期末テストは教科書の内容に加えて、慣用句や洋楽穴埋めがありました。個人のパワーポイントでの発表を数回、グループで小芝居やアニメの吹き替え発表をしました。

・ **ENGLISH CONVERSATION LABORATORY**

通年授業の全て英語で授業を行なっているグローバルビジネス学部の英語授業でした。授業形式を知らずに履修してしまい、レベルの高さに最初は後悔しましたが、教科書ベースの授業だったので、予習をして毎回の授業に参加していました。先生の質問に対して自由に答えたり、教科書の内容について、近くの人と討論したりする形式でした。中間テストは先生と一対一の口頭テストで、期末テストは教科書から出題のペーパーテストでした。

・ **JAPANESE CONVERSATION 2**

秋学期に履修した日本語学科の日本語会話の授業です。日本語の授業ですが、先生はほとんど中国語で説明していたので、リスニングの勉強になりました。教科書をベースとした形式で、音読の部分は、生徒の日本人が発音していました。テストは先生と一対一での会話テストでした。日本人は中国語で会話をしました。

・ **JAPANESE ANIMATION/COMICS AND SUBCULTURE**

秋学期に履修していた日本語学科の漫画やアニメの文化に関する授業です。これも単語などは日本語でも、それ以外は全て中国語での授業だったのでレベルが高かったです。台湾人の友達に意味を教えてもらったりしながら、一緒に授業を受けていました。日本文化ですが、台湾の方が詳しい印象を受けました。先生がアニメの一部を流した時のリアクションや反応がすごく良く、台湾での日本アニメの人気や文化の違いを授業の中で目にする事ができて、とても面白かったです。

⑥ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

クラブ活動はしなかったのですが、日本語学科の生徒たちと交流する「日本語コーナー」に週1、2回参加しました。また、日本人と台湾人が数人のグループになって遊びに行ったり、一緒にご飯に行く活動（学伴：一緒に勉強をするパートナー）に積極的に参加したりしました。何をしたいのか、どこに行きたいのかは各グループで話し合っていて決めていました。春学期と秋学期でメンバーが変わり、日本に興味のある台湾人と友達になり、台湾のことをたくさん教えてもらったり、お互いの文化の違いについて話したりできて楽しかったです。中国語の補修授業の先生が開催してくれたクリスマスパーティーや文化体験などにも参加して、

台湾人だけでなく様々な国の人と交流することができました。

⑦ 現地での住まい

滞在中の寮は学校内にあるので、教室まで 5 分～10 分ほどです。寮の部屋はあらかじめ決まっていて、着いた時に寮母の方に教えてもらいました。私は日本人 4 人、香港人 2 人の 6 人部屋でした。他に 4 人部屋もありました。扇風機と冷房は部屋にあります。暖房はないため冬はとて寒かったです。階ごとにシャワー、トイレ、洗濯機がいくつか設置してありました。食事は寮から 10 分ほど歩いた先にある、飲食店が多く並ぶ通りに行くことが多かったです。朝ご飯から夜ご飯、果物やドリンクスタンド、様々な物が売っています。一人の時はよく寮の隣にある食堂やコンビニエンスストアも利用していました。

⑧ 長期休暇の過ごし方

一番長かった休暇は 1、2 月の旧正月期間です。私は親戚が台湾に住んでいるので、寮に滞在せず、その期間は親戚の家に泊まらせてもらって、一緒に出掛けたり、友達と遊んだりしていました。街のお正月の雰囲気は日本と全く異なり、文化や習慣の違いを肌で感じる事ができてすごく楽しかったです。一週間ほどの連休はルームメイトと旅行に行きました。国の祝日の時は、宿泊場所や新幹線の予約がすぐに埋まり、行く場所が限られてしまったので、早めに計画を立てることが大事だと学びました。

⑨ 留学期間中の就職活動の取り組み

時間のある時に興味のある職種や各企業を調べたり、オンラインセミナーに数回参加したりしていました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

様々な人と出会うことができ、たくさん交流したことです。日本語学科の台湾人との関わりが一番多かったのですが、中国語の授業にはヨーロッパや東南アジア、韓国からの留学生もいました。仲良くなって色々な話ができ、とても刺激的でした。

近場の観光地にたくさん行くことができ、長期休暇中に友達と台中や台南、花蓮（ホワリエン）などを旅行したことが一番の思い出です。民宿の人に海に連れて行ってもらったり、市場の人におすすめを教えてもらったり、現地の方々と何気ない会話ができただけは嬉しかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

寮生活の中で自分の時間を作ることです。共同生活は、心強く、楽しい面もありますが、一人の時間は少ないです。家族以外の人とこんなに長期間過ごしたことがなかったので、貴重な経験になったと思います。周りに合わせないといけない時や意見が違った時など、共同生活の大変さと難しさを実感しました。また、ゼミ単位の読み替え授業を見つけることができなかったことです。読み替え基準が不明確だったので、台湾の大学のシラバスから探す作業

に苦労しました。協定留学でも単位を振替できる授業が必ずあるとは限らないので、3 年生の秋学期から 1 年間の留学に行こうと思っている方は注意してください。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

台湾はバイク社会です。バイク専用のスペースがあったり、家族 3、4 人で乗ったり、大きな荷物や犬も乗せたりしていることに衝撃を受けました。店員がご飯を食べながら接客していたり、近くの席で一緒にご飯を食べたりしている光景をよく見ました。台湾の緩くて、のんびりした雰囲気が良いところだと思いました。

バイバイ（拜拜）という言葉をお店の人やタクシーの運転手、先生にも使えることに驚きました。日本では親しい人に「バイバイ（拜拜）」を使いますが、台湾では別れの挨拶として一般的に使われている感じだったので、最初は戸惑いました。

転部や転学をしている学生が多く見受けられました。大学入学後も自分に合っていないと思ったら柔軟に進路変更できることに驚きました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

大学が台北にあるので、出掛けるところが多いです。交通の便も良いです。中国文化大学は台北の陽明山（ヨウメイサン）の上にあるので、最寄りの台北 MRT の駅（台北地下鉄）までバスで 30 分かかることが少し不便でした。また、山上の天気は山下と異なることが多いです。風が強くて寒い日が多かったです。でも広場からの景色や夜景はどこから見るとも綺麗でした。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは課題をする時や発表にも使いました。ナイロン製の防水服は、雨風が強い日や寒い時に役立ちました。私は夏服も冬服も少しずつ持って行って、台湾で欲しい分を買い足しました。ユニクロや GU は日本の方が安いので、冬用のヒートテックや靴下などを持って行った方が良いと思います。コバエや蚊が寮にいたことがあったので、部屋にワンプッシュする虫除けも役立ちました。身体に使う虫除けやかゆみ止め用外用剤（ムヒ）もよく使いました。ドラッグストア、スーパーマーケットで何でも揃えられますが、日本製品は現地で買うと少し高いので、よく使う日用品や美容品などは日本から持って行った方が良いと思いました。一年留学の人は居留証を作る際、データ化した自分の写真が必要です。私は日本語の参考書をあまり持って行きませんでした。図書館には中国語の本はありますが、まだまだ語学不足なので、日本から持って来れば良かったと思いました。また、便箋は手紙を書きたい時に役立ちました。日本の方が可愛くて種類も豊富です。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

最初は買い物や寮生活も分からないことばかりだったので、特に日常生活で使用する中国語がすごく伸びたように思いました。慣れてからは、より深い話ができるように台湾人の友

達とたくさん話すようにしました。帰国前の 6 月には一人旅もできて、自信や度胸が留学前より付いたように思います。英語は大きく伸びた実感はないのですが、台湾人も含めて英語圏以外の人たちが英語を流暢に話していたので、英語の大切さを改めて感じました。自分も両方をもっと使えるようになりたいと刺激を受けました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

台湾は日本と近く共通する文化もあり、日本に興味がある人が多いので、留学に挑戦しやすい国だと思います。9 ヶ月間の留学をして、日本にいたら絶対に出会うことのなかった人と交流ができ、長期間だからこそその経験をたくさんできました。色々なことがあったけれど、留学して良かったと思っています。なにより実際に台湾に住んで、日本との生活習慣の違いや台湾の魅力をたくさん見つけることができました。台湾に興味があつて、刺激的な大学生を送りたい方は半年間であっても大きな学びになります。ぜひ挑戦してみてください。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

まだはっきりとは決まっていませんが、台湾やその他の国と関わって、日本との懸け橋になりたいです。語学勉強も含めて、留学で学んだことを更に伸ばして、今後活かします。また、様々な国に旅行をして、自分の視野をもっと広げたいと思います。

V. 写真



友達と十份（シーフェン）に行つて、ランタン上げをしました。色によって願い事の意味が異なります。どの面にもたくさん書きました。その後念願だった九份（ジョウフェン）に行きました。悪天候でしたが、有名な場所に来ることができ、台湾にいることをより実感しました。



学校から陽明山に向かってバスで 30 分ぐらいの場所に擎天崗大草原というバッファローの牧場があります。そこに友達とハイキングに行きました。8 人いますが、国籍は 7 カ国のメンバーが集まりました。私が思っていたよりも様々な国の留学生がいて楽しかったです。

2022 年度（秋スタート・1 年）

中国文化大学



4月の連休に大学が希望留学生に向けた2泊3日の台中・阿里山（アーリーシャン）旅行を募集していたので、参加しました。個人では行きにくい阿里山の山奥までガイドしてもらって、貴重な体験でした。



私はマンゴーが大好きなので、マンゴーの聖地と言われている台南市の玉井区（ユージン）にある市場まで行きました。台北よりさらに安く大量に売っていて驚きました。本当はカゴ売りしかしていないけれど、バラ売りをしてくれた方がいて、市場で買うことができました。